

ライオンズクラブ国際協会 330 複合地区
青少年・レオ・ライオンズクエスト第 3 回委員会議事録

日時 2016 年 11 月 30 日(水)

場所 新宿区第 2 伊藤ビル会議室

出席者 飯田委員長、細川 A 地区第一副地区ガバナー、今井 A 地区第二副地区ガバナー、A 地区庄子副委員長、真崎委員、峰村委員、小林委員、B 地区荻窪副委員長、森副委員長、樋口委員、手塚委員、李委員、C 地区田中副委員長、柳澤副委員長、根岸地区委員、JIYD 馬淵事務局長

司会 柳澤副委員長

1. 開会の挨拶 飯田委員長

本日の委員会は、ライオンズクエストの勉強会とし、委員会全員が共通の理解と知識を共有する事と致したい。

2. 来賓挨拶

1) 細川 A 地区第一副地区ガバナー 本日は途中退席となりますが、少しでも勉強のつもりで参加しました。

2) 今井 A 地区第二副地区ガバナー 自らがガバナーを務める時に、あらゆる側面の課題を知っておきたいと考え参加させていただきました。

3. 参加者紹介

参加者全員が自己紹介した。

4. ミニ・セミナー

司会は柳澤副委員長が務め、以下のテーマに沿ってセミナーは進行した。

1) ライオンズクエスト事業活動に対する LCI・LCIF の方針について

2) ライフスキルプログラムとは

3) ライオンズクエストプログラムの構成

4) 相模原市立中野中学校の実例

5) ライオンズクエスト事業の拡大現況

6) LCIF 四大交付金申請手続き概要

セミナーはパワーポイントを用いてスライドを映写し、要点を田中・根岸両クエスト説明員資格者が解説し、制度の概要を理解するに十分なセミナーとなった。

また、JIYD 馬淵事務局長からは、相模原市立中野中学校の成功例の DVD が提供され、申請手続きへのサポートなどについて説明があった。

その後、以下の項目について質疑応答・議論がなされた。

- ① 330 複合地区では C 地区のみのクエスト活動となっており、A・B 両地区では全く動いていない。全日本でみてもクエスト事業を展開していないのは 3 準地区だけであり、330 複合地区内の温度差縮減に向けて何らかの施策を考えるべきではないか。
- ② ライオンズクエスト導入時の LCIF 助成金の使途や資金の流れについて、説明不十分に起因する誤解が増幅され、A・B 両地区の当時の元ガバナーの方々に不信感が蓄積されてきたのもその原因のひとつと見られる。
- ③ また、教育レベルの高い地域では、クエストの中核内容である「ライフスキルプログラム」導入の必要性を感じないとする教育関係者もいて、いじめ問題や暴力問題、器物損壊問題などに直面したことのない地域があるのも事実で、そこではライオンズクエスト普及の必要性が低くなる。
- ④ A 地区では「いじめ問題」と「薬物乱用防止教室」への取り組みを青少年健全育成の柱としており、B 地区も同様の活動が中心となっていて、素晴らしい成果を結実させている。
- ⑤ 薬物乱用防止教室では、ライオンズメンバーが子供たちに直接接触し、その成果を実感できるのに対し、ライオンズクエストは教師を介して子供たちにライフスキル(生きる力)を植え付けていく手法なので、ライオンズメンバーの直接的な達成実感が薄い事もアクティビティーとして浸透しづらい要因となっている。
- ⑥ 相模原中野中学校の成功例 DVD は、いままで「ライフスキルプログラム実施の成果」が眼にみえずらく、数値的な評価が困難なライオンズクエスト事業活動という側面を乗り越える実例と高く評価できる。

5. 飯田委員長総括

本日の勉強会を契機に A・B 地区においてもライオンズクエスト活動に対する理解を深める施策を実施していきたい。両地区の抱えている障壁を乗り越え、福島からの転入生へのいじめ問題のような悲劇を二度と起こさないためにも、ライフスキル教育プログラム展開の大切さを共通の認識として、ライオンズクエスト事業活動の拡大をめざし、日本の未来を支える子供たちのために 330 複合地区委員会はその一步を踏み出す事としたい。

6. 閉会の挨拶

B 地区荻窪副委員長より、B 地区での中野中学校のクエスト事業成功例を PR していく旨を述べ閉会の挨拶がなされた。